

仏の十大弟子

智慧第一

舍利弗

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため発出されていた「非常事態宣言」は解除されましたが、北九州市や東京都では第二派の流行が危ぶまれています。カラスの泣かぬ日はあってもマスクミがコロナを取り上げない日はありませんね。一日も早い収束を思っています。

さて、今月も先月に続き仏の十大弟子の中のお一人「サーリプッタ」(写真)を紹介いたします。

「サーリプッタ」は幼名をウパティシユヤと言います。母親の名前が「サーリ」で、プッタはその子供を意味します。「サーリプッタ」の音写で「舍利弗」とされることが多いのですが、意訳で「秋露子」と訳されることもありま

す。お釈迦さまの弟子の中で誰もがよく知っているのは、先月号で紹介した「阿難」と今月紹介する「舍利弗」、来月紹介する「目連」の三人でしょう。舍利弗と目連は一緒に釈迦さまの弟子になりました。二人は少年時代から一緒に過ごし、世の「無常」ということを若くして知ったことを契機に共に出家し、道を求めることを決心したのです。



舍利弗は、お釈迦さまと多くの問答を重ね、持ち前のすぐれた素質でお釈迦さまの教えを理解したので「智慧第一」と称されました。

説かれた相手が舍利弗で、このお経にて三十七回「舍利弗よ、舍利弗よ」と阿彌陀さまの国土「極樂浄土」のうるわしい姿や阿彌陀さま・聖者たちの尊い徳を、また、この浄土には自力の善では往生できず一心に念仏することによってのみ往生できることを、そしてこの念仏往生の法が真実であることを六方(東・西・南・北・下方・上方)の諸仏が証明しお護りくださることを、お説きになりました。

舍利弗はお釈迦さまに代わって説法したことも多く、お釈迦さまの教団運営を担っていたことが知られています。

お釈迦さまも「智慧第一」とお認めになり、信頼していた、その舍利弗はお釈迦さまより先に入滅してしまいました。

舍利弗の入滅をお知りになつたお釈迦さまは、その別れをとても嘆き悲しまれたそうです。(写真は本願寺新報から転載)

法語の世界

《原文》

前々住上人(蓮如)仰せられ候ふ。『安心決定鈔』のこと、四十余年があひだ御覧候へども、御覧じあかぬと仰せられ候ふ。また、金をほりいだすやうなる聖教なりと仰せられ候ふ。
(『蓮如上人御一代記聞書』二百四十九)

《現代語訳》

蓮如上人は、『安心決定鈔』を「四十年余りの間拝読してきたが、読み飽きるという事のないお聖教である」と仰せになりました。また、「黄金を掘り出すようなお聖教である」とも仰せになりました。

